

「マンガとアニメの力」を考える

高校生無料
会員・一般は有料
オンライン

東京都立大学オープンユニバーシティでは、オンライン スペシャル講座を開講いたします。オンラインならではの特性を活かし、全国の様々な研究者や専門家が登壇し、ユニークかつ興味深い講座を提供します。

今回は、世界的にも評価が高い日本のマンガやアニメ、ディズニーなど海外のマンガ・アニメ文化なども含め、まさにマンガとアニメの力を、専門家や研究者、本学教員、制作に携わる関係者の方々と共に考えます。

「マンガは九番目の芸術」——フランスの美の殿堂・ルーブル美術館がマンガの価値をそのように認めたのは2016年のことでした。フランスでは芸術ジャンルに順序があり、順に「建築」「彫刻」「絵画」「音楽」「文学(詩)」「演劇」「映画」「メディア芸術」とされており、その九番目にマンガ文化が位置づけられたわけです。フランスのBD(バンドデシネ)、アメリカン・コミックス、日本のマンガなど、19世紀以来、マンガは大衆文化としてだけでなく、芸術作品としても洗練されてきました。

2019年5月には大英博物館でマンガ展「The Citi exhibition Manga」が開催され、3ヶ月で18万人が訪れるなど、大変な話題になりました。かように日本のマンガ・アニメは世界的に興味を持たれ、評価もされていることは多くのメディアで紹介されています。日本の代表的な輸出文化の一つとなりましたが、マンガやアニメは若者(大人も世界も)の人生観や価値観、情動的な部分に影響を与えている、と言っても過言ではありません。教育という観点からも重要な役割を果たしています。

本講義では、文学、歴史、映画などの研究者、実際にマンガやアニメの編集・制作に携わる関係者の方々が、各々の専門的立場から「マンガとアニメの力」について考えますが、講座全体のナビゲーターを東京都立大学 人文社会学部 西山雄二教授が務めます。

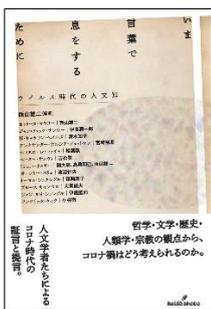


講座ナビゲーター
東京都立大学 教授
西山 雄二

毎回の講義の最後に、登壇される講師の方々と西山教授のミニ対談も実施する予定です。

多くの学問分野やマンガ学部など専門の先生方が登壇されますので、マンガやアニメに興味のある方々は勿論、今後の進路を考えている高校生の方々にも参考になると思います。

本講座に関する著作



『いま言葉で息をするために』
西山雄二 著作



『超』批評 視覚文化×マンガ』
石岡 良治 著作



『ディズニーと動物』
清水 知子 著作



『BD 第九の藝術』
古永 真一 著作



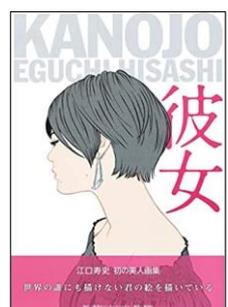
『マンガノミカタ』
吉村 和真 著作



『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』
大貫 俊夫 監訳



『ビッグコミックスピリッツ4/24号』
小学館 石田貴信 編集長



『彼女』
江口寿史 美人画集

日時	7月25日(火)、8月1・8・22・ 29日(火)、9月5・12日(火)	単位	2	高校生専用講座コード	2321G102
	18:30~20:00 ※9月5日は20:30まで				

講座名 「マンガとアニメの力」を考える

受講料 16,000円(8回) ※高校生無料
定員 一般60名 高校生20名
講座形式 オンライン専用講座

講座スケジュール

※アーカイブ(録画)視聴も可能です。

講師

7月25日(火) 18:30~20:00	日本のアニメーションは「マンガ」と出会うことで「アニメ」になった 日本のアニメは、その誕生から発展の各段階で「マンガ」と深く関わってきました。また手塚治虫や石ノ森章太郎らマンガ界の巨匠たちは、誰もがアニメを愛し、自らもアニメ制作に深く関与してきました。ジブリ作品にもつながる日本アニメの歴史を「マンガとの距離感」をキーワードに追います。	映画プロデューサー アニメ特撮アーカイブ機構 研究員 たかはし のぞむ 高橋 望
8月1日(火) 18:30~20:00	手塚治虫—逆風が育んだ「マンガの神様」 「マンガの神様」として知られる手塚治虫。しかしその漫画家人生は決して順風満帆ではありませんでした。実はその象徴が代表作「鉄腕アトム」なのです。はたして、手塚に吹いた「逆風」とは何だったのか。一緒に作品を読みながら、マンガとアニメが持つ社会的影響力について考えます。	京都精華大学 専務理事 マンガ学部 教授 よしむら かずま 吉村 和真
8月8日(火) 18:30~20:00	フランス バンドデシネ 第九の芸術 本講座では、バンド・デシネと呼ばれるフランス語圏のマンガの特徴や魅力について、いくつかの作品を紹介しながら解説します。また、日本のマンガがどのように受容されているのか、フランスのアニメーションが日本のアニメ作品に与えた影響についても考察します。	東京都立大学 人文社会学部 准教授 ふるなが しんいち 古永 真一
8月22日(火) 18:30~20:00	ディズニーと多様性の行方—動物と魔女のエコロジー 本講座では、ディズニー映画におけるプリンセス/ヴィランズと動物たちの関係性を読みとくながら、ディズニーがグローバルなポピュラーメディアとして、現在の「多様性」をめぐる価値規範にどのように向き合っているのか、その可能性と課題について考えます。	東京藝術大学 大学院 国際芸術創造研究科 准教授 しみず とむこ 清水 知子
8月29日(火) 18:30~20:00	視覚文化としてのマンガの多層性 本講座では、諸星大二郎と大島弓子の作品を手がかりにすることで、絵や言葉などを多層的な「イメージ」として扱うマンガの魅力を考えます。知性や感性、現実と空想といった区分を問い直すポテンシャルを読み解きつつ、執筆時点と現在の価値観の差異についても考えたいと思っています。	早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 准教授 いしおか よしはる 石岡 良治
9月5日(火) 18:30~19:50 Part 1	『チ。—地球の運動について—』と歴史マンガの可能性 歴史マンガは歴史的リアリティを備えたフィクションで、他ジャンルとは異なり、独自の視点を導入することで面白さが倍増します。本講座では手塚治虫文化賞マンガ大賞を受賞した魚豊『チ。—地球の運動について—』を読み解くことで、歴史マンガの可能性を考察します。	東京都立大学 人文社会学部 准教授 おおぬま としお 大貫 俊夫
9月5日(火) 20:00~20:30 Part 2 収録出演	「マンガの力」とは何か — 編集者の視点 ※インタビュー形式 小学館ビッグコミックスピリッツの石田編集長が「マンガの力」について考えます。編集長はビッグコミックスペリオールの編集者時代に、大ヒット作『医龍』や『響〜小説家になる方法』を世に送り出していますが、ヒットの要因は何なのか、作家との関係性なども含め編集者の視点から語ります。	小学館 ビッグコミックスピリッツ 編集長 いしだ たかのぶ 石田 貴信
9月12日(火) 18:30~20:00	「マンガを面白くする力」を考える — 作家の視点 ポップなセンス溢れるギャグマンガを開拓し、イラストレーション界に新風を吹き込む江口寿史は、自ら編集長を務めた『COMIC CUE』などで多くのマンガ家の創作にも立ち会ってきました。江口寿史展「彼女」の監修者とともに、マンガを作り手の表現として捉えることでマンガ文化に流れる作家性を読み解きます。	漫画家・イラストレーター えぐち ひさし 江口 寿史 東京都立大学 システムデザイン学部 准教授 くすみ きよし 楠見 清

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月7日(水) 9:00以降

- インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/
- 東京都立大学オープンユニバーシティ窓口
(飯田橋キャンパス: 平日9時~17時30分)
- 電話 03-3288-1050 (飯田橋キャンパス)
- 申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。
- 申込みは受講者個人ごとに受け付けます。人数だけの複数申込みはできません。
- 高校生は、在学高校名と学年を明記してください。

※高校生の参加は無料です。8回シリーズの講座ですが、高校生は1回だけでの参加も可能です。

日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ
棟方志功記念館

高校生無料
会員・一般は有料



2021年春期より「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ」講座がスタートしました。北海道から沖縄まで、日本全国の魅力ある個性的なミュージアムとそのコレクションについて、現地からオンラインで講座をお届けします。今回は青森市の棟方志功記念館です。2023年は棟方志功生誕120年となり東京都でも秋に大きな回顧展が予定されています。青森で生まれ育った棟方志功の作品世界や、芸術に身をささげた生涯について、記念館から特別な講座をお届けします。

棟方志功記念館は、青森が生んだ世界に誇る板画家・棟方志功の文化勲章受章を讃え、その芸業を末永く後世に伝えるため、青森県、青森市をはじめ、多くの方々の協力のもと、1975年に開館しました。

校倉造りを模した建築、四季折々の風情を感じさせてくれる池泉回遊式庭園、「作品を一点ずつじっくり見てほしい」という棟方の意向に基づいたコンパクトな展示室で、ゆったりとした時間を過ごすことができます。

棟方作品のコレクションは国内最多。板画、倭画、油絵、書の各作品に加え、版木、画材、書簡といった資料も豊富です。それらを順次ご紹介するため、年4回テーマを設けて入れ替えています。代表作《二菩薩十大弟子》は通年展示。また、制作風景や日常を記録したドキュメンタリー映画「彫る 棟方志功の世界」の上映もしており、作品と映像の両方から「世界のムナカタ」への理解を深めることができます。

来館者の8割が観光客ですが、青森の方々にこそ郷土の偉大な芸術家に親しんでもらいたいという思いで、毎年9月13日（画伯命日）と11月3日（文化の日）は無料開館日とし、館報「記念館だより」の発行やSNS・Youtubeでの発信、グッズデザイン等の活動もしています。



文化勲章受章時の肖像写真



花矢の柵 1961年 板画



記念館外観

棟方志功記念館

【住所】030-0813 青森県青森市松原2-1-2

【開館時間】4月～10月 午前9時00分～午後5時00分

11月～3月 午前9時30分～午後5時00分

【休館日】月曜日（祝日及び8/2～7のねぶた祭期間は休まず開館）、
年末年始

【入館料】一般550円（450円）、学生（専門含む）300円（200円）、
高校生200円（100円）、小・中学生無料 ※（ ）は20名以上の団体

【アクセス】青森駅、新青森駅より市営バス乗車 「堤橋」バス停より徒歩約
10分/青森自動車道青森中央インターから車で約15分

日時 8月26日(土) 13:00~14:30

単位
1

高校生専用講座コード

2321G104

講座名 **棟方志功の生涯と作品**

受講料 3,000円(1回) ※高校生無料

定員 一般50名 高校生10名

講座形式 オンライン専用講座

講座スケジュール ※アーカイブ配信(録画)も視聴できます。

● 8月26日(土) 13:00~14:30

講師: 竹浪 彩矢子(たけなみ さやこ)

唯一無二の板画世界を展開し、今なお多くの人々を魅了してやまない棟方志功。パッと見ただけで棟方作品だと気づけるような特徴があり、裸婦や神仏など画題も印象的で、どちらかというイメージが先行する作家かもしれません。しかし、じっくり鑑賞すると、板画を始めただばかりの頃から晩年に至るまで作風は次々と変化していたことがわかります。昭和10年頃から対象を模様のように表すことで独自の道を切り開きはじめ、《二菩薩釈迦十大弟子》に代表されるような白と黒の面による対比、戦後に挑戦する、黒地の体に白の刻線で輪郭を描く人物表現、公共施設を飾る巨大な板壁画…生涯で生み出した一万点とも二万点とも言われる作品の中には、様々な技法や表現、それまでの版画界にはなかった新しさなどが詰まっています。生誕120年の今年、全国各地で棟方志功展が開かれます。ぜひこの機会に、棟方の生涯をたどりながら、時代ごとに変化を見せる作品の面白さを一緒に味わってみませんか？



鐘溪頌 倭桜の柵
1945年(1969年摺) 板画

【棟方志功記念館 展覧会情報】※詳細は当館HPでご確認ください。

◆生誕120年記念特別展「友情と信頼の障屏画」

2023年6月20日(火)~ 9月18日(月・祝)

生涯多くの友人・支援者に恵まれた棟方は、彼らのために邸宅内部を飾る襖絵や屏風絵を様々描きました。《御群鯉図》をはじめとする障屏画の大作を展示し、棟方の交友関係を紹介します。

◆秋の展示「安於母利妃」

2023年9月20日(水)~12月17日(日)

棟方の女人礼讃の原点には、貧しい暮らしの中15人の子どもたちを生み育てた故郷青森の母の姿がありました。愛しい母から受けた慈愛から広がる女人像を、棟方を育てた青森の雄大な自然も交えて展示します。



青森ねぶた図 1960年 倭画

講師: 竹浪 彩矢子(たけなみ さやこ) 棟方志功記念館 学芸員



お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月7日(水) 9:00以降

●インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/

●東京都立大学オープンユニバーシティ窓口
(飯田橋キャンパス: 平日9時~17時30分)

●電話 03-3288-1050 (飯田橋キャンパス)

・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。

・申込みは受講者個人ごとに受け付けます。人数だけの複数申込みはできません。

・高校生は、在学高校名と学年を明記してください。

『食 × 文化』 特別編VI
人間にとって食とは何か③

高校生無料
会員・一般は有料
オンライン

単位 0 講座コード 0000000
高校生専用講座コード 0000000

講座名 京都の食文化

受講料 5,000円 (2回) ※高校生無料

定員 一般20名 高校生10名

講座形式 オンライン

本講座は、2021年夏期講座で開講したオンライン スペシャル講座『食 × 文化』の特別編になります。
『食 × 文化』は、多くの皆様に受講していただき好評を博し、現在まで続編Vで開講しております。
今回は特別編Vに引き続き、京都府立大学 佐藤洋一郎 特別専任教授のご協力により特別編VIをお届けします。

講座スケジュール

※アーカイブ配信(録画)も視聴できます。

● 9月16日(土) 14:00~15:30

京都の食文化(前半)

世界的な食文化のメッカのひとつである京都の食文化を「解剖」してお話します。キーワードは、1)水、2)盆地、3)人間関係、です。前半では、水と盆地についてお話しします。京都盆地の地下には琵琶湖の水量に匹敵する地下水があります。軟水で、だしのような薄味にもよくあいます。水温は年間を通じてほぼ同じ、夏は冷たく感じられるので冷蔵庫代わりにされてきました。盆地は山に囲まれた土地です。山際の土地ならではの作物が独特の食材を育みました。タケノコ、サンショウ、ヤマノイモなどのほか、川魚の存在をあげることができます。小さな盆地なので、この土地内での「循環」が独自のネットワークを形成しました。また、盆地は夏暑く冬寒い気候をもちます。メリハリある季節感が独特の食文化を生んだ側面もあります。

● 9月30日(土) 14:00~15:30

京都の食文化(後半)

後半では京都盆地の人間関係を取り上げます。都の存在、貴族や武家の存在が長い伝統文化を生み出しました。戦災に遭わなかったこともあって、100年を超える濃密な人間関係に基づくface to faceの取引が今も続いています。いわゆる京野菜も、このような関係で育まれてきました。

いっぽうで京都は新しいものが好きな街です。中華、パン、コーヒーなどがそれです。そしてパンやコーヒーの消費量は全国トップクラスです。そして、これらは、祇園や上七軒などのいわゆる「花街」で受け入れられてきたのです。これらの文化が、今後の和食にも影響を与えてゆくことでしょう。



講師

さとう よういちろう

佐藤 洋一郎

ふじのくに地球環境史
ミュージアム館長



京都の食文化
(中公新書)

講師略歴

農学博士。
京都大学大学院農学研究科
修士課程修了。国立遺伝学研
究所研究員、静岡大学農学部
助教授、総合地球環境学研
究所教授・副所長、大学共同
利用機関法人人間文化研究機
構理事等を経て、京都府立大
学特別専任教授。
第9回松下幸之助花と緑の博
覧会記念奨励賞、第17回 濱
田青陵賞を受賞。
和食文化学会 初代会長。
2021年4月 ふじのくに地球
環境史ミュージアム館長に就
任。
2022年1月「知っておきたい
和食の文化」、2022年7月
「食べるとはどういうことか」
を上梓。

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月7日(水)9:00以降

●インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/

●東京都立大学オープンユニバーシティ窓口
(飯田橋キャンパス: 平日9時~17時30分)

●電話 03-3288-1050 (飯田橋キャンパス)

・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。

・申込みは受講者個人ごとに受付けます。人数だけの複数申込みは
できません。

・高校生は、在学高校名と学年を明記してください。